

ロータリー理解推進月間にあたって

パストガバナー **大谷 透**
(大阪西南RC)



謹賀新年

一月はロータリー理解推進月間です。

『一年の計は元旦にあり』、年頭にあたり、ロータリーの目的や信条を再確認して、新しい年を歩み出すようにと、1月をロータリー理解推進月間に定められたのだと思います。ここで改めて次の2つの質問に自分ならどう答えるだろうかと考えながら、基本を振り返って見ても如何でしょう。

- ①ロータリークラブ入会の目的は？
- ②ロータリーの云う人生の目的とは？

それは「これぞロータリアンと云われるべき人間像」に近づこうと努力することです。

毎月発行される「ロータリーの友」の6頁にはロータリーとは、その誕生と成長、日本のロータリー、年度のR I のテーマ、に合わせて必ずロータリーの目的(綱領)と四つのテストが掲載されています。

目的(綱領)は一言で云えば：Ideal of service(奉仕の理念)を隣人に対して実践せよと云うことで、その下の4項目は目的が4つあるのではなく、(1)友人、(2)職業、(3)地域社会、(4)国際的、に関わる人も隣人なのですよと念を押してあるだけなのです。

問題はserviceの意味を正しく理解する事です。サービスとは「人(々)のニーズを満たそうとする行為」です。そしてIdealとは達成度において、最高位にランクされる事柄ですから、「Ideal of service」とはその人のニ

ーズをその人にとって理想的と思われる様なかたちで満たす事です。そのように努力しましょうと云うのがロータリーの目的(綱領)です。

「四つのテスト」は自分の言行がロータリアンとして適切かどうかを評価する時に用いるべき基準とされています。

ロータリー創立50周年の1954年にR I 会長となったハーバート・テラーは、1932年に倒産寸前にあったアルミ調理器具の会社を再生させるために、この「四つのテスト」の実行を従業員に徹底させて、その会社を立派に再生せしめました。

彼は後に、旧約聖書のエレミア書9章23・24節を引用して、次のような内容の言葉を述べています。「我々の言行を四つのテストに適ったものとするための奥義とは、正義と慈愛の絶対者なる神を恐れ敬う謙虚な心を持つことである」。

即ち、神仏の前で申し開きの出来る行いであるかどうかを絶えず反省する謙虚な心を持つ事だと云うのです。

『得意而忘言』(意を得て言葉を忘れる)。

ロータリー理解が推進し、目的(綱領)や4つのテストのところが身に付いてしまえば、その文言は忘れてしまってもよいのですが、それが達成されるまでは、言葉に頼る必要があるのです。この機会に目的の文言をしっかりと覚え、その理解を深める事の大切さを再認識することが期待されています。